



2011～2012 年度  
国際ロータリー会長

カルヤン・パネルジー

# Weekly Report Niigata



心の中をみつめよう  
博愛を広げるために

2011～12 年度 国際ロータリーのテーマ



2011～2012 年度  
新潟ロータリー会長

佐藤 紳一

新潟 RC 9月第4例会 (2011.9.27) No.2914(夜の例会)

(1) ロータリーソング「それでこそロータリー」斉唱

(2) 佐藤 紳一会長挨拶

敬老の日は終わりましたが、思いを少し話してみます。

母方の祖母は福島県喜多方市の出身です。新潟の津川に嫁ぎ7人の子どもをもうけました。上の兄二人は太平洋戦争にてガダルカナル島で戦死しました。今も津川のお寺に戦没者石碑に名前が刻まれています。横井庄一さん、小野田寛さんがグアムから相次いで帰還。祖母はそのニュースを見るたびに、布団、寝巻き、日用品を用意し始めるのです。何十年も経ち兄たちのことをすっかり忘れていた兄弟たち、本当に戦争は残酷です。祖母は心の中でいつかは帰ってくると、ずっと思っていたのでしょうか。悲しくもあり、母の愛情を感じます。

9月24日菅原神社秋の大祭が行われ、私どもの神輿会は渡御に参加しました。この神輿に参加するわけは、神輿を担いでケアハウス知足会、デイサービスセンター鏡淵に慰問に行くからです。お年寄りの皆さんが車椅子などに乗り万代太鼓や神輿を見にくるというより拝みに集まるようです。社会奉仕のひとつです。まだやんちゃな私も少しは人のためになることをしていると感じています。

今夜は東日本大震災で医療支援活動を行っている新潟大学高橋先生のお話です。

(3) 高山 景君退会挨拶

(4) 石井直前会計より2010～11年度決算報告

(5) 卓話「東日本大震災における

新潟大学 DMAT の医療支援活動」

新潟大学大学院医歯学総合研究科

呼吸循環外科 講師 高橋 昌氏

## コ ラ ム

(株)日電商会 取締役会長 鈴木 滋弥

「六巡目の干支を迎えて」

今年(9月23日)に六度目の干支が巡って来ました。私の残り人生も終盤(?)、後半に入って参りました。72歳の誕生日を迎えるに当り少しばかり自身のこれまでの来し方を振り返って見ようと、このお盆休みに考えました。

古い事は記憶も臆で不確かですので、精々5年程前の事柄を忘れない内に整理をして、与えられたこのコラムの機会に書き記して見ようと思った次第です。と申しますのはこの60代後半の時期は私の人生におきましては仕事上に於いて、心身、家庭、家族に於いて大変大きな変化と決断の期間だったからです。

1. 平成18年8月(67歳)癌の告示  
排尿時に違和感があり主治医と相談の上、直ちに新潟ガンセンターで一日入院しての精密検査を受けました。前立腺全体がガンになっており取り除くのは難しいと判断されました。(PSA値は参考までに92です。)どうしても切除するとなれば睾丸も同時に取ることになり普段の生活に不便を来しますよと告げられ、これは止めました。ガンの状態は病院が言うところの「Stage C」段階で5年後の生存率は50~70%となり家族はびっくり。ホルモン療法(3ヶ月に1回の注射)、放射線治療、抗がん剤の服用で現在も治療継続中です。保険会社からはガン告示で50万円[(65歳なら100万だった)放射線治療で30万円頂戴しましたが割に合う話では有りません。放射線は連続して35日間で70グレイ(シーベルトに換算すると0.8掛けで56シーベルト)照射で、一遍に浴びたら死んでしまう量のように。ガン細胞を殺すのですから当たり前かも知れません。お陰様でガンは大分小さくなったようですが放射線の後遺症が今も残っており、福島第一原発での影響の怖さが分かります。

2. 平成19年7月(68歳)親父の成年後見人となる  
心筋梗塞と膀胱癌で入退院を繰り返している父の痴呆が進み介護保険の利用に絡み私の兄弟、親父の兄弟全員の同意を得て、親父と同居、世話をしている次男坊の私が成年後見人になることとしました。その手続きの難しい事といったら有りません。家庭裁判所通いから始まり法務局、市役所に幾度も通い指導を受けました。私が幼稚園生の頃に疎開をしていた柏崎の市役所までも書類を取りに行ったものです。そこにはちゃんと戦前の戸籍が残っており、大層苦労しましたが、我が国は法治国家で大したもので、この法律のお陰で私たちの生活、財産が守られているのだと云う事を痛感した次第です。苦労したお陰で新潟家庭裁判所から成年後見人として認定するとの審判が下りました。

3. 平成20年2月(69歳)父、100歳で逝く  
明治41年11月14日生まれの父が行年100歳で亡くなりました。前から読んででも後ろから読んで41-11-14と同じだと妙な自慢をしていたものでした。大往生だったと思っております。平成5年にお袋に先立たれ寂しい思いをした晩年だったと、可哀相でした。膀胱癌と心筋梗塞で入退院を繰り返し、下の方の始末まで散々嫁である私の家内の世話になった父でしたが、ずっと眠り続けていたのですが亡くなる少し前に眼を開けて付添っていた家内へ「ありがとう」と言ってくれました。不思議ですね。家内はこの一言で今迄の苦労が報われたと申しております。私も救われました。家内には感謝の気持ちでいっぱいです。

金曜日の夜に亡くなり、土曜に通夜をやり日曜に告別式を行いました。子供と孫達だけでの見送りでしたが、心のこもった、ゆったりとした満足のいく家族葬だったと自負しております。月曜に会社いつもの通り仕事をしました。会社では誰一人気付く者も居りませんでした。

4. 平成20年9月(69歳)M&Aと第四経営相談所  
ガンに罹り父が他界し私も70歳を迎えるのを目前にして、親父が昭和21年に創業し私が二代目として引き継ぎ60余年続いた会社でしたが、M&Aの手法で他人へ譲渡する決断を致しました。第四銀行経営相談所さんに仲立ちをお願い

し話を進める事と致しました。M&Aを実行するに当たってはその前段階として合資会社を株式会社に改組したり、親類、兄弟名義の「株」を整理したりと面倒な手続きが必要でしたがこれも第四さんのお世話になりました。

5. 平成21年8月(70歳)会社の譲渡契約成立  
ひょんな事から、たまたま我社を訪ねて来られた方との出会いから会社の売却先が見つかりました。会社にとっても私個人にとってもとても重要な事なのに、物事が決まると云うのはこんなにいつも簡単なのだと思った次第です。売り手は高価に、買い手は安価にと当たり前の事ですが、そこで第四経営相談所さんにまたまた仲立ちを頼みました。信用力絶大な第四さんに会社の価値を裁定して頂いた訳です。「株式会社日電商会の名称を残し、社員は全員継続雇用、事業も継続」と私が望んだ通りの契約をする事が出来ました。手続きを進めて行く間に「第四銀行経営相談所」は名称を変えて独立し、その名も「だいし経営コンサルティング株式会社」となり、新会社の手懸けたM&Aの記念すべき栄えある第1号となりました。

6. 平成22年2月(71歳)代表取締役の辞任、取締役会長に就任  
昭和37年4月から実に48年間働いて来た仕事に、いま一応のピリオドを打ちました。社長職辞任後は会社に於いても休日の家に居ても時間に余裕が持て、以前より興味を持っていた日本の古典と謂われる書籍を読み始める事に致しました。書棚にある岩波書店の「日本古典文学大系」で読み出したのですが、これは高校の教科書と同じ難しさで、解説を読みながらの理解では、これでは死ぬまでかかっても幾らも読めないと諦め、残念ですが現代口語版で読む事にしました。非常に面白く近頃の私の頭の中は奈良、平安の都大路を彷徨っておるような次第です。枕草子、源氏物語、今昔物語、伊勢物語、古事記、宇治拾遺物語に更級日記、蜻蛉日記に土佐日記、百人一首に、和泉式部日記、万葉集、徒然草、方丈記、次は古今集に移ります。大聖人の孔子さま曰く「六十にして耳順がう。七十にして心の欲する所に従って矩を踰えず」と。孔子様に比較するのはとっても烏滸がましいのですが、孔子様は72歳でお亡くなりになられ80歳代はどう生きたら良いのか分かりませんが、私の60歳後半は全国にいる同業者の社長仲間、ロータリークラブの諸先輩、友人、それとだいし経営コンサルさん、それと特に家内と娘の言葉にはよ一く耳を傾け、逆らわず。72歳になる現在は仕事半分、旅行、読書、ゴルフにロータリー活動半分と心の欲する所に従って悪い事はせず、残りの人生を愉しもうと日々過ごしております。

最後までお読み頂きありがとうございます御座いました。

M&A : 企業の合併と買収の略

「論語」より

『子の曰く、吾れ

十有五にして学に志す。

三十にして立つ。

四十にして惑わず。

五十にして天命を知る。

六十にして耳順がう。(したがう)

七十にして心の欲する所に従えども、

矩を踰えず。』